

Ⅱ 調査結果の概要

総じて悪化傾向にあり、設備投資の動きも鈍化

1. 全体の概況

売上高と収益性を合せたD I 平均値（前年同期比）〔※「前年同期比」は、29年1-3月期と比較した値。以下、「同期比」と表記〕については、▲11.5となり、前回調査(29年10-12月期)の▲10.3から1.2ポイント下降している。来期見通しにおいては、8.6ポイント上昇して▲2.9となる見通しになっている。

売上高D I（同期比）については▲8.6となり、前回調査から1.3ポイント下降している。来期見通しにおいては8.6ポイント上昇して0.0となる見通しになっている。

収益性D I（同期比）については▲14.4となり、前回調査から1.2ポイント下降している。来期見通しにおいては8.6ポイント上昇して▲5.8となる見通しになっている。

業況D I（同期比）については▲10.7となり、前回調査から2.2ポイント下降している。来期見通しにおいては7.3ポイント上昇して▲3.4となる見通しになっている。

原材料価格D I（前期比）については46.3となり、前回調査から6.5ポイント上昇している。

販売価格D I（前期比）については0.0となり、前回調査から2.7ポイント上昇している。

資金繰りD I（前期比）については▲8.6となり、前回調査から2.3ポイント下降し、悪化している。

金融機関の態度D I（前期比）については0.8となり、前回調査から2.7ポイント下降し、硬化している。

設備投資実施率については25.1%となり、前回調査から5.0ポイント下降している。業種別で高い実施率となったのは「機械・機器」・「プラスチック製品」で、目的別では「品質向上」が30.0%でトップとなっている。

来期の設備投資計画率については36.7%となり、前回調査から3.7ポイント上昇している。

設備操業率D I（前期比）については▲8.0となり、前回調査から7.1ポイント下降している。

雇用人員判断D I（前期比）については23.0となり、前回調査から2.2ポイント下降しているが、依然として不足感が続いている。

全体の景況天気図は、3期連続して「小雨」が続いているが、来期見通しにおいては「曇」に転じる見通しとなっている。

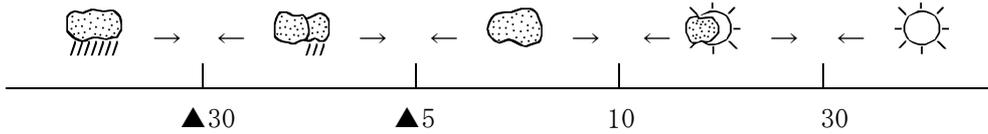
業種別に見ると「金属・同製品」は「小雨」から「曇」、「木材・木製品」・「プラスチック製品」は「雨」から「小雨」へそれぞれ回復している。反面、「紙・加工品」は「薄日」から「小雨」へ悪化している。また、「機械・機器」は「曇」、「食料品」・「繊維・同製品」・「窯業・土石製品」は「小雨」と、それぞれ前回調査同様の天気図となっている。

来期見通しにおいては「繊維・同製品」・「窯業・土石製品」・「プラスチック製品」は「小雨」から「曇」へそれぞれ回復。反面、「木材・木製品」は「小雨」から「雨」へ悪化。「金属・同製品」・「機械・機器」は「曇」、「食料品」・「紙・加工品」は「小雨」がそれぞれ続く見通しとなっている。

【図表 1】

	28				29				30	来 期 見 通
	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	
全 体	 ▲20.6	 ▲22.2	 ▲21.3	 ▲22.3	 ▲17.8	 ▲4.1	 ▲14.3	 ▲10.3	 ▲11.5	 ▲2.9

※景況天気図は「売上高」「収益性」(同期比)のDI平均値を下記の基準に当てはめたもの。



【図表 2】

